

第214回:軍隊が売位売官?

いま習近平指導部が政権の存続を賭けてしゃにむに進めている腐敗追放キャンペーン。「このまま腐敗を放置すれば国家が減ぶ。しかしながら腐敗を根絶すれば今度は党が減ぶ」。これは究極のディレンマであり、蒋介石率いる国民党時代からの悪しき伝統でもある。華人リー・クアン・ユー(李光耀)が、人権抑圧まで踏み込んでシンガポールを清廉な国にしようとした背景には蒋介石時代の腐敗現象がある。この究極の難題にどう折り合いをつけるか、習近平の出方が注目されている。中国を蝕む腐敗現象は、この国の構造的な問題であり、その根絶を目指すためには国家のシステムそのものから変えていく必要がある。

この腐敗追放劇は胡錦濤から習近平への政権交代を間近に控えた2012年の4月、薄熙来(前政治局委員)の逮捕で幕を開けた。薄熙来逮捕を決断したのは胡錦濤だが、事件捜査と刑事告発は後任の習近平に引き継がれた。薄熙来が逮捕されて以降、その関連容疑者が芋蔓式に検挙されており、容疑者が厳しい取り調べを受ける過程で、彼らの背後に潜む党軍政府の大立者の存在が、徐々に明らかになりつつある。薄熙来の上司で彼の同盟者であった周永康(前政治局常務委員)の逮捕はまだ公表されていないが、いまや公知の既定事実となりつつある。薄熙来や周永康が所属していた中共中央政治局とは別名中南海、中国の最高権力機関だが、実は政治局よりももっとタブー視され、メスを入れにくい伏魔殿と云われているのが人民解放軍だ。ミステリー小説に「木を隠したければ森の中に隠せ」という名言があるが、中国では「悪事を隠したければ解放軍に隠せ」と云う。これまで軍の内部は一切が竹のカーテンのなかに隠されてきた。情報公開の経験のない権力中枢の実態が暴露されたら、これはえらいことだ。

その人民解放軍の内部が薄熙来・周永康事件で炙り出され、遂にメスが入ることになりそう。総参謀部、総政治部、総装備部と共に、二百万超の将兵を指揮する総後勤部の谷俊山中将(前副部長)が、3月31日、軍事裁判所に起訴された。兵站業務を総攬する谷俊山中将は、薄熙来が身柄を拘束される2ヶ月前に既に失脚していたのだが、この2年の間、内部の調査は相当難航していたようだ。今年1月になって、谷俊山の実家で行われた家宅捜索の様子が国内メディアに報じられ、事件が漸く動き始めた。党内調査の難航につき、香港や米国の華字系メディアは、軍内部の問題はあまりに敏感なので、これまで公開が憚られてきたと報道している。そりゃそうだろう、この国の教科書では「中国人民解放軍が、腐敗した国民党に代わり、抗日戦争を戦い、万人等しく平等な国家を築いた」と書かれている。もしも解放軍のトップが金権と腐敗に塗れていたとなると、正義の味方の人民解放軍と云うシナリオが崩れ、党の面目丸潰れ、その正統性が揺らぎかねないのである。だから解放軍の史上最大の汚職事件が発生し、谷俊山中将が更迭されてから2年経ち、習近平はやっと勇気を奮って中国国内の報道許可を決断したのである。

その谷俊山の後ろ盾となって長らく人民解放軍を率いてきた徐才厚上将(1943~前政治局委員・军委副主席)が党の取り調べを受けていると云う情報がしつこく流されている。その噂の真否は不詳だが、万が一、彼が習近平政権が標的とする「大虎」であることが判明すれば、周永康事件以上に大変なことになるだろう。天安門事件のあと鄧小平から指導者に指名された江沢民(元主席)は、13年後の2002年に政権を胡錦濤に禅譲したが、爾来彼は2年間も軍事委員会主席にとどまり、実質中国 No1 の地位を保った。当時の軍事

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3



委員会は江沢民主席を胡錦濤副主席(文民)、曹剛川上将(1935～)、郭伯雄上将(1942～)の副主席3名が支える体制であった。その江沢民が2004年4月に軍事委員会から退き、やっと名実ともに胡錦濤時代が始まったのだが、このとき江沢民と一緒に曹剛川副主席が引退し、留任した郭伯雄と共に胡錦濤主席を支えることになったのが新任の徐才厚上将であった。これ誰が見ても露骨な人事で、江沢民が自分の引退と引き換えに、徐才厚上将を代理人として軍に送り込んだのである。この郭徐両副主席の経歴は、ふたりの顔写真を比較すれば、なんとなく分かるような気がする。

郭伯雄は中卒の一兵卒として入営し、蘭州軍区の現場から聯隊・師団・軍団を経て総参謀部に這い上がった叩き上げだ。胸間声を張り上げて閲兵するのがいかにも似合いそうな風貌の老将だ。一方、郭上将と対照的なのが貴公子然とした徐才厚上将、彼はハルビン軍事工程学院を卒業したピカピカのエリート軍人。これまで一貫して総政治部の系列を歩いてきた。軍事作戦よりは政権闘争の方が得意な軍人なのだろう。制服組の最高位である军委副主席は、通常総参謀部長か、総政治部主任の経験者が勤めることが多い。ショーン・コネリー主演の「レッド・オクトーバーを追え」の中で原潜レッド・オクトーバーの指揮官がショーン・コネリー扮するラムウス艦長とプーチン政治将校(名前が示すようにいかにも悪そうな人物だった)の2人となっていたが、これが総参謀部長と総政治部主任の関係だ。正直云って徐才厚が取り調べを受けていると云うニュースは半信半疑だが、もしも彼に捜査の手が伸びるとすれば、それは習近平の江沢民への挑戦であり、もしも仁義なき戦いがホントに始まれば習近平が勝っても負けても中国はカオスに陥る。

谷俊山は兵站を統括する総後勤部の No.3 の副部長だった。ネット情報によると谷俊山を告発したのは、彼の上司で総後勤部 No.2 の劉源上将(総後勤部政治委員)だという。彼は文化大革命中に幽閉され実質殺害された劉少奇(元国家主席)の遺児で、習近平の幼馴染の親友だ。ここにも政権闘争の匂いがする。報道によると谷俊山邸のガサ入れには数十名の武装警察が参加し、軍用特別供給の茅台酒や、黄金の装飾品、盆栽や毛沢東像まで押収したという。谷俊山は総後勤部で住宅土地管理局局長、インフラ建設住宅部長や全軍緑化委員会事務局主任、全軍住宅改革事務局主任等を歴任しており、一説に 200 億元(1元=17円)とも云われる巨額の汚職額には、北京や上海の軍用地の払い下げによるオフィスやマンション建設に伴うキックバックも含まれているようだ。彼の犯行はそれに留まらず、中国の歴史に習ったのか軍の官衙役職や階級まで売買していたらしい。売位売官は漢の時代から続いてきた現象だが、共産党にも受け継がれてきたとは、いやはや何とも云いようがない。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成26年4月3日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱 UFJ 信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040